

令和5年2月2日

### 市原ロータリークラブ卓話

皆さんこんにちは、ただいまご紹介に与りました千葉信用金庫の宮澤と申します。本日は、このような機会をいただきまして誠にありがとうございます。また日頃は「吉田支店長」が皆さんに大変お世話になっており、またお近くの千葉信用金庫の営業店も大変お世話になっております。この場を、お借りして改めて深く御礼を申し上げます。

○私は、2014年から千葉ロータリークラブに所属しております、今年度は「会員増強委員会」の副委員長を務めているロータリアンでございます。ですから、先輩ロータリアンの皆さまの前で私が卓話をして良いものかどうかの戸惑いも大きいのですが、せっかくの機会を頂きましてので、本日は私の「ライフワーク」について、このワークは職業としての仕事というよりもより広い意味の「生きがい」を感じながら好きなことに取り組む方のワークとして話をさせて頂きます。

○私の「ライフワーク」は、日本全国の城・城跡を巡り歩くことあります(テレビ番組等話題)。最初の城巡りは、かなり古くなりますが今から44年前(ちょうど20歳の頃)四国を旅した時まで遡ります。

当時の私は、司馬遼太郎の書物を愛読しております「龍馬がゆく」という小説を読みましたら、忽ち坂本龍馬に憧れてしまい高知県桂浜の坂本龍馬の銅像と室戸岬の中岡慎太郎の銅像に会うために四国を訪れました。

この時、龍馬の生誕地であります高知県の「高知城」、闘牛で有名な

愛媛県の「宇和島城」、「坂の上の雲」の舞台でもあり夏目漱石や正岡子規で有名な同じく愛媛県の「松山城」、そして金毘羅さんやうどんで有名な香川県の「丸亀城」・「高松城」と5つの「城」を巡りました。

この時巡った「城」は、私が初めて見た江戸時代の「城」であり、東京駅から夜行寝台特急に乗り込み、岡山県の宇野から「宇高連絡船」で香川県の高松に渡り、汽車とバスを乗り継いだ人生で最初の旅でもあったので、その時目にした様々な情景を記憶として鮮明にとどめております。

この後も、旅が好きでしたから訪れたところに「城」があれば必ず立ち寄り城下町の面影を残す街等を散策しておりました。

そして、私が本格的に城巡りをするようになったのは、2007年9月伊勢神宮を参拝した際に三重県の「伊賀上野城」を訪れた時城内のお土産売り場で財団法人 日本城郭協会監修の「日本100名城 公式ガイドブック」という書物を初めて目にしまして、すぐに買い求めました（発行は2007年7月3日・私が目にする二ヵ月前に出たばかり）

この日本城郭協会が100名城を選定するにあたっては、東京大学の名誉教授を委員長として「建築史」、「近代史」、「戦国時代史」、「中世史」、「城郭考古学」を専門とする5人の大学教授が委員となり、3つの条件を設けて100名城を選定しています。

- ① 優れた文化財であり史跡であること
- ② 著名な歴史の舞台であること
- ③ 時代、地域の代表であること

この3つの条件に天守の復元や石垣の復元に問題のある「城」や「石垣」等を除いて全国の城・城跡の中から100カ所を選定しています。

私は、ここから気持ちを新たに、このガイドブックをしっかり読み込んで、これまでに訪れた「城」も仕切り直して、改めて10年計画で全国(北海道から沖縄)の「城」巡りの旅に出ました。

そして、2019年8月島根県の「津和野城」と山口県の「萩城」を巡ることにより、名城100選巡りはひとまずの所は完結しました。2007年9月から2019年8月まで、12年間かけた城巡りの旅でした。

○ ここで「城」に関するエピソードを少し紹介したく思います

時は、1615年大阪夏の陣で豊臣方に勝利した徳川家康は、京都の「伏見城」に諸大名を集めて「一国一城令」を発布しました。

これにより、1つの国(藩)には政府として1つの「城」を残す以外はすべて取り壊しとなり、これまで全国に3万とも4万ともいわれていた「城」は、これを機に200程度まで激減していきます。

この一国一城令に続き「武家諸法度」の制定により原則として新規築城は禁止され、城の修築も幕府の許可が必要となっていきます。

関ヶ原の戦いで大きな武功があった「福島正則」は、「広島城」の無断普請を「将軍秀忠」に咎められ転封・蟄居を命ぜられ悲惨な最期を迎えたのは有名な史実であるようです。

○ 嘉永年間(1848年)当時の全国城分布図というものがありまして、この「城」分布図によりますと千葉県には12の城があり、堀田備中守正陸の「佐倉城」拾一万石が最大で、次いで関宿五万六千石、久留里三万石、大多喜二万石と続きます。地元市原では「鶴牧城一万五千石」がありました。しかしながら現在では姉崎小学校になっていて、鶴牧城の遺構はほとんど残っていないようです。

(姉崎小学校正門に入った所に「史跡鶴牧城跡の標柱」あり)

また、名城100選に千葉県では「佐倉城址」が一つだけ指定されています。

○ さて200程度になった「城」はこの後、明治維新を迎えていく訳ですが、明治新政府は、「城」を徳川時代の遺物(封建的遺産)であると目の敵にしまして明治6年に「廃城令」を発布し、「廢藩置県」を機に一旦「城」はすべて「陸軍省」の財産としました。

しかし、すべての「城」が軍用地として必要ではなかったようであり、広大な敷地に建物も大きかったので管理にも手間がかかったので、さらに「要塞」としての重要な拠点に必要な「39の城」を残し、その他の「城」は不要とされ「廃城」が決定し大蔵省の普通財産となつていきます。

残ることが出来た「39の城」は、補修も行われず腐敗にまかせたまま取り壊しの危機に瀕する状態であり、新政府は財政難の状態であつたため文化財として保護された訳ではなく、主要な建物以外は、軍用地確保のため石垣や堀とともに壊されていきました。

しかし全国の「城」が破却されていく中、「城」を守ろうと動いた人たちもいました。陸軍大佐であった中村重遠という人物が、日本の「城」は建築的・美術的にも価値あるものだと考え、陸軍卿であった山県有朋に保存の建白書を提出し懇願したところ、これが認められて永久保存が決定し陸軍の費用から修理され危うく廃棄を免れることができたのが「姫路城」と「名古屋城」です。

○ 「彦根城」も解体の話が進んでいましたが、明治天皇の北陸巡行に同行していた「大隈重信」がたまたま「彦根城」に立ち寄り、その取

り壊しを惜しみ、明治天皇に保存を奏上したことにより勅命で保存が決定しております。

(大隈重信が立ち寄らなかったら「彦根城」の雄姿はなかった)

○「松本城」は、地元新聞社の民権運動家が、有志から資金を集めて落札者から天守を借り受け、そこで展覧会を開催しその収益により天守を買い戻し、取り壊しを回避することが出来ました。

○「松江城」は、明治8年に陸軍省が天守を取り壊して180円で売りに出そうとしたところ、この「城」が消えることを惜しんだ旧出雲藩士の高木権八と豪商の勝部元右衛門が八方奔走して180円でこれを買い取り、天守の解体を食い止めることが出来ました。

結果的に、明治以後も残ることのできた「城(天守)」は20となってしまいましたが、更なる悲劇が残ることが出来た幸運な「城」を襲います。

それは太平洋戦争です。昭和20年の空襲により7つの「城(天守)」を失っています。この時、焼失した城は、「水戸城」、「名古屋城」、「大垣城」、「和歌山城」、「岡山城」、「福山城」、「広島城」です。「広島城」に至っては、原爆ドームに隣接する程の近距離であったため原爆の爆風により木端微塵に倒壊してしまいました。

○姫路の市街地も焼夷弾で焼き尽くされていますが、「姫路城」は地元の人々が黒い網で天守を覆うなどして守りぬき、奇跡的に空襲を逃れることができました。地元住民に守られた「姫路城」は、敗戦後の人々に生きる希望を与えたとのことです。

そして北海道の「松前城」は、昭和24年に飛び火により焼失してしまいます。もし、これらの「城(天守)」が残っていたらと思うと残念でなりません。

○ 全国に3万とも4万ともいわれていた「城」は、火災による焼失、地震による倒壊そして「一国一城令」、「廢城令」、「太平洋戦争」と「城」にとっての災難が続きました。

現在は12の古い天守を見ることが出来ますが、これらの災難を潜り抜けて現存することができた幸運な城でありまして、その分文化財としての価値も高く、後世に残すべき日本の文化遺産だと思っています

○現存している12の天守を北から紹介していきますと

① 桜の名称でもある青森県の「弘前城」があります。

「弘前城」は、東北で唯一の現存天守を持つ津軽氏歴代の「城」であり、築城当時の天守は落雷で焼失してしまいますが、1810年に辰巳櫓を三重に改築して天守に代用したものが現在保存修理中の「弘前城」です。

(櫓→天守の四隅などに敵の監視や防備、そして武器等の収蔵の役割を兼ね備えた構造物)

② 徳川家光を迎えるために増築された朱塗りの月見櫓が目を引く長野県の国宝「松本城」です。「松本城」の天守は、姫路城とともに二基しか現存していない五重の天守として大変貴重な城郭です。黒塗(漆黒)の国宝天守の後方に雪を冠った北アルプスの姿が重なりいっそう黒い城を引き立てます。

③ 木曾川対岸からの眺めが最も美しい愛知県の国宝「犬山城」明治維新後、天守以外は取り壊され県が所有していましたが、1891の

濃尾地震で天守が破損してしまい、城の修理・整備を条件に旧城主であつた成瀬氏に譲渡されて全国唯一の個人所有の城なつたが、現在は財団法人犬山城白帝文庫の所有となつています。

④ 2007 年に築城 400 年を迎え、マスコット「ひこにゃん」が有名になった滋賀県の国宝「彦根城」

「彦根城」は、西国諸大名の押さえのための重要拠点として、明智光秀の居城であった佐和山城、信長の安土城、大津城、小谷城等廃城となつた近隣の石垣等を転用した急ごしらえの城でありました。

現在の天守は、大津城の天守を移築・改修したものと云われています。城下には、井伊直弼が暮らした「埋木舎」や武家屋敷、寺町等城下町の風情が色濃く残つております、城下町か見上げる「彦根城」とても美しいものがあります。

⑤ 現存、天守の中で最も古いと云われている福井県の「丸岡城」

「丸岡城」天守の屋根瓦は笏谷石という青みがかつた石で葺かれおり、小振りな天守ですが石瓦を使用しているのはここだけです。1948 年の福井地震で倒壊してしまい、可能な限り倒壊前の建材を活用して再建されました。旧国宝であり現在は重要文化財です。

⑥ 国宝であり世界遺産である兵庫県の「姫路城」

⑦ 標高 432m に築かれた唯一山城として現存している岡山県の「備中松山城」

「備中松山城」の二重二階の天守は、現存する天守の中では最小のも

のですが、日本一高い所にある山城です。

⑧ 宍道湖畔の小高い丘に築かれた島根県の国宝「松江城」

「松江城」は、お堀の船からの眺めが美しく 2015 年に 56 年ぶりに築城年を特定する資料が再発見され、国宝に再度指定されました。

⑨ 三段の石垣に最も小ぶりな天守がそびえる香川県の「丸亀城」

「丸亀城」は一国一城令により一時廃城となるが、家康に仕えていた近江の山崎家治が穴太衆(石垣のプロ集団)を連れて 5 万 3 千石で入封し、山麓から山頂までの 66m の間に 3 段の石垣を築いた見事な要塞です。3 段の石垣の高さは 50m に達する。

⑩ 坂本龍馬も見上げていた高知県の「高知城」。

「高知城」は関ヶ原の戦い後、山内一豊が掛川城 5 万石から入封し一躍土佐 24 万石の太守なった城であり、天守に付属して殿様の住居であった本丸御殿も現存している全国唯一貴重なもの。」

⑪ 松山の街からの眺めが美しい愛媛県の「松山城」。

「松山城」は、標高 132m の勝山に築城された連立式天守で、落雷によって焼失しますが、1852 年に再建されたものが現在のもので、現存する 12 天守のうち最も新しいものです。

⑫ 築城の妙手 藤堂高虎が築城した愛媛県の「宇和島城」

「宇和島城」は 1596 から 6 年を費やして築城され、その後伊達政宗の長男秀宗(政宗の側室の子)が領主となり、現在の古天守は 1671 年に築城されたもので、天守に玄関が付随しているのが大きな特徴です。

これまで紹介してきた 12 の現存天守のうち「松本城」、「犬山城」、「彦根城」、「姫路城」、「松江城」の 5 つの「城」が国宝に指定されており、「姫路城」は奈良の法隆寺とともに日本で最初の世界文化遺産となつたことは言うまでもありません。

○私は、「日本 100 名城」の本により初めて知った「城」や 100 名城以外の地元の人しか知らないような小さな「城跡」も訪れて、その原風景に身を置いてきました。「城跡」、「城址」というだけあってほとんどの「城」は石垣しか残っていません。

石垣に手を触れて思いにふけると、つくづくと人の世の「榮枯盛衰」を感じさせてくれます。「安土城天主跡」、「江戸城天守跡」などは、そこに天守があつたらと想像すると、圧倒的な規模の城郭であったことが脳裏に描けるくらいの迫力を今でも感じさせてくれます。

○先程、100 名城巡りはひとまず完結したと云いましたが、100 名城以外の城跡も多く残っており、再び訪れたい 100 名城もあります。

現在は、以前読んだ作家/五木寛之の「100 寺巡礼」の古寺と神社を巡っているので、これと併せて全国の名湯に浸かりながら新たな旅に出ております。

○何故、旅に出て「城」や「古刹」を訪れるのかというと、私的には、非日常的な空間に引き付けられるからです。

社会学者の「大澤 真幸」氏の、「人が自分の人生を意味あるものと実感するには、人生を超える時間の流れと結びつく必要がある」という言葉に出会い。うまく表現できなかつた自分のライフワークがすっぽりと腹落ちした感があります。

○千葉信用金庫は、来年 6 月に創立 100 周年を迎えます。